

関西学院大学 研究成果報告

2025年11月10日

関西学院 院長殿

所属：社会学部
職名：教授
氏名：貴戸 理恵

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	☒ 関西学院留学 長期（滞在国： 韓国 ） ☐ 関西学院留学 短期（滞在国： ） ☐ 宣教師研究期間 ☐ 関西学院外留学（滞在国： ）
研究課題	オルタナティブ教育の現状と課題：韓国・イギリス・タイを中心に
研究実施場所	ソウル特別市・済州島（韓国）、サフォーク州レイストン・オックスフォード（イギリス）、カンチャナブリ・バンコク（タイ）
研究期間	2025年 4月13日 ～2025年 8月18日（ 4ヶ月）

◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

申請者は、日本における不登校者の教育とキャリアについて当事者がいかに意味づけているかを、大阪でフリースクールを運営するNPO法人「フォロ」の協力のもと、質的研究を通じて探求してきた（『「生きづらさ」を聴く：不登校・ひきこもりと当事者研究のエスノグラフィ』2022、日本評論社）。今回の留学では、日本のフリースクールや居場所の実践を相対化するため、海外のオルタナティブ教育や子ども・若者のキャリア支援について調査を行った。以下に調査概要と得られた成果を報告する。

1. 調査概要

【韓国調査】

・4月、済州島にて、オルタナティブ教育機関であるビョルコル校が実施する「Earth Festival」を見学し保護者へのインタビューを行うとともに、別のオルタナティブ教育機関ビュプシ校の校長イ・ヨンギ氏、人類学者チョハン・ヘジョン教授へのインタビューを行った。

・4月～7月、ソウル市の若者キャリア支援施設「ハジャ・センター」の企画部長である李忠漢氏の紹介により、①民間の居場所／ソウル市実施のオルタナティブ教育プログラムオデュッセイスクールを運営する「ミュンドウルレ」、②ひきこもり支援団体「存在クラブ」、③若者の心理相談を行う「イアダン心理センター」、④無業の若者支援を行う「NEETカンパニー」、⑤ひきこもり当事者が宿泊施設運営やインターネットを通じた

表現・発信を行う「怖くない会社」、⑥京畿道におけるひきこもり支援を牽引するカウンセリングセンター「PIE」等の施設を見学し、関係者へインタビュー（各2時間程度）を行った。また、ひきこもり支援団体SEEDSの元スタッフである大草稔氏（台湾在住）にZoomでインタビューした。

- ・各施設にて当事者の手記やイベント報告書、関連書籍やパンフレットなどの資料を収集した。

【イギリス調査】

5月、サフォーク州レイストンにて、世界で最も歴史あるオルタナティブスクールの一つであるサマーヒルスクールのフィールドワークを行った。子ども・スタッフともひとりが一票を持つ運営会議や諸施設を見学し、副校長のReadhead氏に略式のインタビューを行った。

また、London Metropolitan Universityで行われた「CARES: School Exclusion & Alternative Provision Research Symposium」に参加し、現地の研究者と交流した。

さらに、オックスフォード大学ブラヴァトニク行政学部にて行われたFrancesca Happe教授（Kings College London）の講演「Changes in the concept of Autism」を受講し、知見を広げた。

【タイ調査】

8月、カンチャナブリのオルタナティブスクール「Moo Baan Dek（タイ子ども村学園、孤児や被虐待児にサマーヒル式の民主的教育を行う教育コミュニティ）」にて2泊3日のフィールドワークを行った。折り紙や手遊びを通じて子どもたちと交流し、Fund Raising Eventの準備を手伝い、当日のイベントを見学した。

さらに、同校を舞台としたドキュメンタリー映画「6 weeks to Mother's day」の監督および撮影チームであるMarvin Brant氏、Kuun氏と交流し、バンコクでインタビューを行った。

2. 成果

【研究上の成果】

特に韓国調査において、大きな成果があった。報告者は日本における不登校・ひきこもり支援に携わってきており、韓国では2020年代以降ひきこもり支援が急速に整備されつつある中で、日韓各国において、「若者と社会とのつながり」の失調がいかなる形態で現れ、各アクター（特に当事者）によっていかに意味づけられ、行政と民間がどのように連携・補完しあって問題を構成したり対策を講じたりするかという点を、国際比較のなかで考察する糸口を得ることができた。2026年度以降、今回得た人脈を活かしてひきこもり支援・当事者活動の日韓比較研究を行うため、科研費の申請を行った。

【教育上の成果】

特にタイ調査において大きな成果があった。報告者は社会学部で「現代若者・子ども論」「教育社会学」を担当し、オルタナティブ教育について講義している。フィールドワークの成果を学生に還元するとともに、映像作品「6 Weeks to Mother's Day」を学生に見せることで、オルタナティブ教育が中産階級だけでなく、貧困層の子どもにも資するものであると示す。また、今回の留学により構築された人脈を活用し、学生がオルタナティブ教育機関で調査およびボランティアを行う全学的な海外留学プログラム（2単位）を構想中である。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間の大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。